

# 会員生協の活動報告 & 予定案内

## 福井県医療生協

### ニューイヤーパーティー 今年も元気に盛り上がる

今年で3回目の病院ブロックニューイヤーパーティー! 組合員ルーム「だん・だん」で1月18日に開催されました。皆勤賞の方から初参加のお顔なども見えて、総勢33名が参加されました。



初めに組合員さんのハーモニカ演奏に合わせてみんなで歌いました。あいだにはピアノ演奏、リハビリ体操を行い、「いい湯だな」の音楽に合わせてリズム体操、体もすっきりリフレッシュしました。最後は恒例のピンゴゲームで盛り上がりました。今回のお題は「お鍋に何入れる?」のお鍋の具材ピンゴ。いつもの鍋の中身を思い出しながら、みんなでピンゴ鍋を作りました。今回もあっという間に時間が過ぎ、とても楽しく過ごしました。

### 創立60周年 組合員に感謝!

## 福井県学校生協

令和元年11月2日(土)~3日(日)の2日間に渡り、指定店会の活性化と組合員の福利厚生事業の一環として、(一財)福井県教育センター全館にて、「秋の生協祭り2019」を開催し、388人の組合員さん及びご家族の方にご来場いただきました。

今回は、従来の企画の他に、新企画として「敗者復活じゃんけん大会・謎解きクイズ」や福井大学教育学部附属特別支援学校とタイアップして、児童・生徒達の作品の展示販売のブースを設置しました。さらに、会場内に「令和元年台風15号・19号」への募金箱を設置、集まった義援金を日本赤十字社を通じ寄付させていただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

また、おろしそば(県内奥越産そば粉100%使用)を食べられる手打ちそばブースでは、新そば粉を使用した「挽きたて・打ちたて・茹でたて」の三拍子揃った「二八そばと十割そば」を、組合員さんやご家族の方に味わっていただきながら、「秋の生協祭り2019」は盛況のうちに終了いたしました。



### 「おもち配り」を行いました

## 福井大学生協

1月24日にSoSen部(生協学生委員会)企画として餅配を行い、117人の方に参加いただきました。準備の都合で、杵ではなく餅つき機でもちをつきましたが、学生さんにとっては餅つき機で餅ができる様子を見るのは面白かったようです。

また、当日はレジ袋有料化に関するアンケートにも協力いただき、学生さんの環境問題に関する意識やエコバックの利用実態を調査しました。今後の環境対応のとりくみにも生かしていく予定です。



### 2020年4月

## 福井県民生協

### 「金津きりめき」オープン

あわら市にオープンする金津きりめきは、県民せいきょうが運営する介護施設です。

「あなたらしさ いつまでも」を福祉理念とし、住み慣れた地域で、安心して自分らしく暮らし続けられる支援をめざします。

開設地 〒919-0628 あわら市大溝3丁目11番7(クレオンランドかなづ東側)

予定の介護サービス 【小規模多機能型居宅介護】 【認知症対応型共同生活介護(グループホーム)】

「金津きりめき」は利用者や組合員、地域の方々など誰もが利用できるコミュニティスペースを設ける予定です。施設が、地域の皆さんが集まる癒しの場、学びの場、助け合いの場、そして気軽に立ち寄れる交流拠点となることで人が行き交います。

多くの方に利用いただくことで、入居される方が外出するきっかけにもなり、地域や人とのつながりを大切にしながら過ごせます。

### 生協祭り 盛大に開催

## 菅浜生協

今年の生協祭りは、快晴の中11月17日(日)早朝より区民、菅浜出身者、近隣地域、観光客、サイクリング、魚釣り客等、大勢の人で賑わいました。生協恒例の大抽選会、ヤマト味噌量売り、餅つき、そば打ち、炊き込みご飯、フランクフルト、作業帽、岩本さんの野菜、セイコガニ、へしこ、焼鯖、池野さんのかきもち、協賛店としてやたか、ハーツ、山本鮮魚店、田中与さんの出店、医療生協さんによる健康チェックがあり、文字通り大盛況(生協)の一日となりました。早朝よりご来店頂きましたお客様、出店頂いた皆様、壮青年会、婦人会、菅浜わくわく協働体他多くのボランティアの皆様のご協力に感謝感謝です。ありがとうございました。



### 2019年の自然災害による被災者対応報告

## 福井県労済生協

近年、全国で大きな自然災害が頻発していますが、昨年においても、8月下旬から10月にかけて、豪雨や台風による多くの自然災害が発生しました。被害にあわれた方々へ心よりお見舞い申し上げます。福井県労済の組合員においても、台風19号などで被災された組合員の方々に対し、早期に共済金のお支払いができるよう、迅速な被災者対応をおこないました。

福井県内の  
2019年自然災害による  
被災対応状況  
(2020年1月20日時点)

被災受付件数 121件  
お支払い共済金額 約1,565万円

全国での  
2019年自然災害による  
被災対応状況  
(2020年1月20日時点)

被災受付件数 62,222件  
お支払い共済金額 約213億7,318万円

# ふくいの生協

福井県生活協同組合連合会  
〒910-0842 福井市開発5丁目1603番地(県民生協本部センター内)  
TEL0776-52-8815 FAX0776-52-2050 Eメールアドレス kenren@fukuicoop.or.jp

2020年3月6日 No.126

<http://www.fukui.coop/kenren/>

福井県生協連合会

検索

## 『令和の時代は協同の時代』 冬季役職員学習会を開催しました

11月8日(金)、福井県教育センター 3階301・302会議室において、冬季役職員学習会を開催しました。「地域における協同組合の役割を広げる」をテーマに、協同組合の役割、先進事例を学び、県内の協同組合間連携を強化し、地域福祉の発展に寄与していくための学習会を開催し、24名の参加がありました。



一般社団法人日本協同組合連携機構(JCA)から、常務理事の青竹豊氏と主任研究員の佐藤憲司氏をお招きし、JCA設立の背景や歴史、日本の協同組合の概況、そしてこれからの協同組合の

役割と課題についてご講義いただきました。各地の協同組合間の連携事例には、店舗の協同運営から、地域のための活動、高齢者支援や災害復興支援と、さまざまな活動・成果があり、協同組合間連携を実現することで、さらに協同組合の価値を高め、地域共生社会に貢献していくことが求められていると強く感じました。



最後に、福井県内の協同組合連絡会、団体からの報告があり、今後の連携推進に向けた相互理解に多めに役立つ内容となりました。



## 福井県協同組合連絡会 視察研修に参加しました

2019年12月19日(木)

【場所】大野市 福井グリーンパワーバイオマス発電所  
株式会社昇竜 九頭竜まいたけ工場

福井県協同組合連絡会(JA中央会・経済連・漁連・森連、生協連)では、毎年各協同組合の施設を視察しながら交流を図っています。今年は福井県森林組合連合会の関係する施設を2箇所視察しました。

1箇所目は、大野の九頭竜森林組合も出資し設立した「福井グリーンパワー」のバイオマス発電所。発電規模は約7,000kW。今注目の木質バイオマスという再生エネルギーによる発電で、CO<sub>2</sub>削減、地球温暖化防止に寄与しています。森林組合から地元の間伐材を供給し、原料となる燃料チップの約50%を賄っているそうです。また林業の再生や山の整備・保全、また

従業員の地元雇用にもつながっています。大規模ですばらしい施設でした。

2箇所目は、旧和泉村にある「株式会社昇竜」の九頭竜まいたけ工場。生協でも取り扱いしている商品です。標高1,000m近い山に自生する幻の「黒まいたけ」を栽培しています。温度・湿度管理された培養室を見学しました。まいたけの菌床は1回しか使えないらしく、オガ粉はナラ・ブナなどの広葉樹。70日間培養し、2週間かけて成長するそうです。工場加工品の販売もしており、近くに行った際は一度ご覧ください。



# 会員生協のボランティア活動紹介

福井県生協連合会では、会員生協（組織または役職員・組合員）が行っているボランティア活動に対して助成金をお渡しし、活動を応援しています。

## 福井県民生協

### 岩手県陸前高田市での桜植樹ボランティア活動に参加しました

東日本大震災で津波が到達した地点に桜を植樹して後世に地震・津波の怖さを伝承しようという「桜ライン311」の植樹活動に、2019年11月16日組合員・職員9人で参加しました。4年目となる今回もオオヤマザクラの苗木3本を植樹し、合計14本となりました。

「桜ライン311」の方の「過去の教訓を活かせず、多くの犠牲が出てしまっても悔しい」という言葉が印象に残りました。

今回はいわて生協・大阪パルコープ・大阪よどがわ市民生協の皆さんと一緒に生協チームとして植樹に取り組み、生協間交流もできました。

植樹後は昨年9月にオープンしたばかりの津波伝承館（いわてTUNAMIメモリアル）を見学しました。地震・津波の歴史、当時の記録、命を守るための教訓などを学べる施設で、誰もが一度は足を運んで欲しいと思いました。



## 福井県医療生協

### 園児と遊び、餅を食べて楽しく交流もちつき交流会

あわら市清間地区で高齢者が集う介護予防拠点施設「やすらぎ清間」において、昨年12月12日に恒例の「もちつき交流会」が行なわれました。毎年楽しみに待っている利用者さんなど42名の参加者が集いました。

「やすらぎ清間」の屋外ではテントの中でボランティアさんと園児も杵を持ってもちつきに参加し「おろし、きなこ、つぶあん」にまめめられ参加者に振る舞われました。

屋内でも健康体操で身体を動かし、園児による歌の披露とゲームをみんなで一緒にやり、記念の「クリスマス飾り」が渡され、年の締めくくりの月に笑顔あふれる楽しい時間を過ごしました。



▲交流する園児と参加者



▲もちつきする園児

## 福井県庁生協

### じゃがいも収穫祭 ～親子で楽しいじゃがいも掘り～

緑苑地区壮青年会では、地区の子ども達に「食の大切さ」を伝え、「収穫の喜び」を体験させることを目的として、じゃがいも収穫祭を開催しています。この活動は、緑苑自治会が企画し、壮青年会と婦人会が実働部隊として毎年初夏に開催しています。

今回の収穫祭の準備も、まだ吐く息が白い3月中旬に公園内花壇の土作りを始めました。まずは、耕運機で土をまんべんに耕した後、施肥を行いました。4月に200株ほどの種芋を植え、5月には、雑草取りや間引きなど収穫祭に向け準備を続けてきました。

7月7日(日)午前10時、自治会の親子連れ約80組が参加し、軍手をはめた子どもたちが土を掘り、およそ100キロのジャガイモを収穫しました。収穫したばかりのジャガイモは、フライドポテトなどの料理になり、ホクホクしたポテトをその場で美味しくいただきました。参加した子供たちからは、「お父さんと一緒にジャガイモを掘って、みんなで食べたら、とても美味しかった。」との感想もあり、大人も楽しい休日をご過ごしました。



## 菅浜生協

### 「こどもお宝探検隊in美浜」炭焼き体験開催

9月28日(土) 福井テレビ・北陸コカ・コーラ主催の「森に学ぼう」プロジェクト「こどもお宝探検隊in美浜」が開催され、県内在住の小学生とその保護者20組40名が炭焼き体験と記念植樹を行いました。最初に、浜野健治さんより森の大切さ、炭焼きの歴史、炭ができるまでの過程につき説明があり、その後炭材の切断と窯入れ、のこぎりによるコースター作り、薪割りを順番に体験しました。最後に記念植樹を行った後、浜野さん秘伝の猪入りの味噌汁を堪能して、身も心も腹一杯となりました。家族にとって楽しい思い出になったものと思います。

\*炭焼きは、6月27日(休)に美浜東小学校3年生30名、11月20日(休)に東京修徳中学校30名も体験されました。



## 福井県学校生協

### 育つ福祉の心 児童と地域の交流

小浜市・加斗小学校では、3・4年生児童が地域の障がい者自立支援施設(Cネットふくい)や高齢者福祉施設(もみじの里)を訪問し、施設の方々との交流活動を体験した。訪問の回数を重ねることに、障がい者や高齢者への理解が高まると共に会話や笑顔、創意工夫が増し充実した活動になった。

また、4・5・6年生がクラブ活動を中心に校区内の海岸や児童館などの施設の美化活動に主体的に取り組み、ふるさとへの愛着心を高めることができた。今後も、地域住民に発信し、継続して取り組んでいきたいと考えている。



## 3.11 を忘れない

みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

### サッカーで女川町の名前を全国に広めたい

コバルトレ女川は、現在、東北社会人サッカーリーグ1部で戦っているサッカーチームです。2006年、スポーツを中心にまちを活性化しようという「女川スポーツコミュニティ構想」のもと、アマチュアのクラブチームとして発足し、数々の試合で地元を元気づけてきました。また、子どもサッカー教室の開催などを通じて地元の人々とのきずなを深めてきました。チームのコンセプトは「地域貢献」です。

チームの活動は2011年のリーグ開幕直前に発生した東日本大震災で、休止を余儀なくされました。阿部裕二監督は「チームの本質は何か、自分たちを見つめ直した」と当時を振り返ります。そして「できることをやろう」と様々な支援活動に取り組みます。5月には子どもたちと一緒にサッカーを始めました。「グラウンドに通える子どもたちを集めて、教えるというよりもただ遊んでいました」。また放課後、スクールバスを待つ子どもたちと校庭でボールを蹴って遊ぶこともありました。



▲幼稚園・保育所、小学校でのサッカー教室を行なっている他、地域イベントにも積極的に参加しています。11月には選手たちがみやぎ生協石巻渡波店の秋まつりでボール遊びやテーブルサッカーゲームをして子どもたちとふれあいました。(写真提供:コバルトレ女川)

9月にはトップチームの選手が練習を再開し、2012年4月、再びリーグ戦のピッチに立ちました。2018年には念願のJFL昇格を果たしましたが、2019年は再びリーグ1部で戦うことになりました。

試合は遠方で開催することも多く、いつも地元の応援があるとは限りません。しかし阿部監督は「ま

## 収集ボランティアは ご協力ありがとうございました

収集物	量
使用済み切手	1,500g
ヘルマーク	2,774点
書き損じ葉書	17枚
外国コイン	国:10カ国 コイン枚数:37枚 他に日本の古銭も

ボランティア月間で収集された使用済み切手・ヘルマーク・外国コインは、福井ボランティアセンターを通じて次の団体に寄贈され、役立てられています。また、書き損じ葉書は福井県内の福祉施設法人へ寄贈しています。

- ①NPO法人 誕生日ありがとう運動本部  
<http://tanjyobiariga10.web.fc2.com/>  
活動内容 知的ハンディキャップ問題の社会啓発活動
- ②公益財団法人 ジョイセフ(家族計画国際協力財)  
<http://www.joicfp.or.jp/>  
活動内容 開発途上国への人口・家族計画・母子健康に関する研究および研究助成・援助活動
- ③公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)  
<http://www.jocs.or.jp>  
活動内容 アジアやアフリカなどの保険医療が十分でない地域への協力活動
- ④公益財団法人 日本ユニセフ協会  
<https://www.unicef.or.jp/> 活動内容 世界の児童の健全育成

## ～地域とスポーツ～

### 宮城県女川町／コバルトレ女川

ちを歩いていけば、今週は試合があるの？この間は勝った？と声をかけてもらえる。試合会場には来られなくても応援してくれているというのをヒシヒシと感じる」と話します。

▲シーバルピア女川にあるオフィシャルショップ「コバルトレ女川サポーターズパーク」の前で阿部監督。「震災直後、サッカー教室で教えたことのある子が、この近くでアルバイトしていたり、スーパーなどで会うと挨拶してくれたりするんですよ」と話します。



また選手は皆、みやぎ生協をはじめ女川や石巻などの地元企業で働き、就業外の時間を使ってサッカーの練習に励んでいます。「働いて収入を得てサッカーができる環境をつくってくださっている。それも応援の一つだと思います」。

阿部監督の願いは「サッカーで女川の名前を全国に広めること」です。そのためにはリーグ1部を勝ち抜いてJFLに昇格しなければなりません。2021年2月には女川町に天然芝のグラウンドができる予定です。「JFLに上がって女川町のグラウンドで試合ができれば、これまで以上に多くのサポーターが来町してくれる。ここでサッカーを観戦し、お酒を酌み交わし、美味しいものを食べてくれる。それが復興の後押しにもなると考えています」。

※JFL/日本フットボールリーグ。アマチュアリーグ最上位に位置する組織。